

令和5年11月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和5年11月6日(月) 11時00分～11時45分
場所 市役所2階 第1委員会室
出席 市政記者クラブ9社 12名

会見内容

1. 話題提供(3項目)

はじめに 交通安全の取り組みについて

- はじめに交通安全の取り組みについてです。
- 10月17日(火曜日)と18日(水曜日)に立て続けに市内で交通死亡事故が発生しました。大変悲しく、痛ましい事故でありまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともにご遺族の方々に心よりお悔やみを申し上げます。
- 10月17日の事故につきましては、午前10時50分頃に、市立病院の駐車場で4歳の女の子が車にはねられて亡くなるという事故でした。
- 市立病院では、すぐに駐車場の安全対策の状況を確認し、安全柵の設置や誘導員の増員などの対策を決定し、直ちに実行に移しました。あわせて警察からの助言がありました注意喚起看板の設置や歩行者通路の路面表示については、現在準備を進めているところです。
- よくお話しをさせていただいていますが、交通事故は100%人災でありますことから、しっかり注意をしていくことで防ぐことができます。
- 市立病院の駐車場の中では、致し方ないことですが、人と車が混在しています。今警察とも話をしながら対応を取っていますけれども、これから(新棟の)工事等も始まりますので、駐車場の安全対策についてしっかりと相談していきながら、病院利用者の安全確保に努めてまいりたいと考えております。
- そして翌日の18日は、午前11時10分頃、春採7丁目の市道で高齢者2名が車道を歩いていたところ後ろから来た乗用車にはねられて亡くなるという事故でした。
- 今年は市内で4件の交通死亡事故が発生しており、5名の方が犠牲となり、その多くは高齢者が関わった事故となっております。
- 加害者も被害者も悲劇しかありませんので、改めて100%人災だという話をさせていただき、注意喚起、啓発にしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

1 台湾プロモーションおよび、北海道フェスティバルinハロンについて

- 話題のはじめは、台湾プロモーション及び、ベトナムで開催される北海道フェスティバルinハロンへの参加についてです。
- 台湾プロモーションは、11月12日(日曜日)から11月15日(水曜日)の日程で実施します。
- 今回はかねてより重点的に誘致活動を進めてきた台湾からの更なる誘客とともに、釧路空港への国際線誘致に向けて、官民で構成される「くしろ広域観光誘致推進協議会」をはじめとする関係者の方々と、現地航空会社や旅行会社を訪問します。
- 併せて、台湾との交流を深めるため、北陽高校の生徒たちにも様々な教育の機会の中で海外交流を企画・実施してきたところであり、その中の台湾の見学旅行については、コロナ禍で3年連続実施できませんでしたが、今年度はやっと実施できることとなり、来る11月12日(日曜日)から16日(木曜日)までの日程で台北市を訪問し、14日(火曜日)に文山区の景文高級中学校との学校交流を行います。
- 次に11月16日(木曜日)から19日(日曜日)の日程で、ベトナムハロン市で開催

されます「北海道フェスティバル in ハロン」に参加します。

- クアンニン省創立60周年・日越外交関係樹立50周年を記念して、北海道知事が名誉顧問を務める実行委員会等が主催するイベントであり、会場内の観光ブースには釧路市も出展し、釧路の食や観光をはじめとする地域のPRを実施してまいります。
- フェスティバルに先立って、11月16日（木曜日）には、北海道から幹部職員や笠井道議によるハノイにある現地石炭会社のビナコミンの訪問が計画されており、釧路市もベトナムと石炭で深い繋がりがある関係から同行するほか、2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン事業の中では、釧路市がベトナムのホストタウンに選定され、パラリンピックのパワーリフティングベトナム代表チームが事前合宿を釧路市で行いました関係もあり、ベトナムのスポーツ省を訪問します。
また、釧路の教育大学がベトナムで実施されたバレーボール大会に参加したことも踏まえ挨拶に伺おうと考えています。
- 台湾とベトナムの訪問について、どちらも大変親日的な国であり、更に交流を深めるため、このようなスケジュールで進めて行きます。

2 釧路市ふるさと納税返礼品PR（笠原シェフ考案レシピの活用）

- 2点目は、ふるさと納税の返礼品についてです。
- 2023年9月7日に、テレビやYouTube等で活躍されている東京・恵比寿の人気料亭「賛否両論」の店主である笠原将弘氏をお招きし、地元のものを使った返礼品15品を試食いただき、オリジナルレシピを考案いただきたいという依頼をしておりました。
この度、5品のレシピが完成いたしましたので、釧路市の「ふるさと納税特設ホームページ」や寄付の申込サイトなどで公開し、広くPRしていこうというものです。
- 合わせて、それぞれのレシピがどのような料理で、どのような味なのか実際に調理し、試食を行う機会を作るため、釧路市と連携協定を結んでいる釧路短期大学の皆さまにご協力いただきます。釧路短期大学 生活科学科 高橋 未佳講師と、生活科学科 食物栄養専攻の1年生、全23名に調理していただきます。
- 実施日は11月10日（金曜日）午前9時から、釧路短期大学の調理実習教室で、調理・試食を行います。当日は4つのグループに分かれ、主食の炊き込みご飯は全員分、その他は各グループが1品ずつ調理し、料理のしやすさや彩り、味覚などを確認し、その様子や学生の感想などを記録し、12月上旬をめどに、レシピと合わせてホームページ等で公開し、広くPRしてまいります。
- 報道関係の皆様にご試食いただく分もご用意いたしますので、ぜひ、ご試食いただければありがたいと考えております。
- このような取り組みを行いながら、ふるさと納税をPRし、寄付額の増加につなげていければと考えております。

2. 質疑要旨

（質問）

- ・交通安全の話の中で、市立病院の対策について、安全柵の設置と誘導員の配置はすでに行われており、注意看板の設置と歩行者の路面表示はこれから行われるとのことですが、具体的にどういった看板や路面表示になりますか。
（市立釧路総合病院 総務課長）
- ・路面表示につきましては、早期に着工することができ、11月3日に実施いたしました。看板につきましては、正面玄関や救急玄関に「駐車場内の歩行にお気を付けください」「車の通行時は徐行ください」という看板を近日中に設置します。また、一番大きい駐車場の

入口に「徐行厳守」を設置する予定です。

(質問)

- ・いろいろ対策がありましたが、現場は車が止まっている前に横断帯があるようになっていきます。車の駐車場所や横断帯の位置など抜本的に変えることは考えていますか。

(市長)

- ・まさしくそこが重要になると考えています。車と人が混在する形になっており、救急車が入るところと正面入口が近い状態です。救急車が入れるところには普通の車も入れます。そういった抜本的なところを考えていかなければならないと思っています。その中で、新棟の建設がありますので、そういったことを踏まえて考えていきます。現状の中では、今の体制の中で可能な限り安全対策をしっかりと行っていくことにならざるを得ません。

車と人の混在が非常に問題であると思っており、ご指摘のとおりだと思っています。

(質問)

- ・構造的、抜本的なものは新棟建設の中で行うのですか。

(市長)

- ・来年から工事がスタートし、今の駐車場の場所に新棟が建設されます。その中で、この教訓を踏まえていきながら、安全確保を進めていこうと考えています。

(質問)

- ・台湾プロモーションとベトナム訪問について、市長日程としては、いつからいつまでになりますか。

(市長)

- ・私は11月12日に出発し、18日の午後に戻ってきます。

(質問)

- ・同行は観光関係の職員になりますか。

(市長)

- ・スポーツ省にも伺いますので教育長のほか、総合政策部、観光関係、学校関係になります。議会からは畑中議長が訪問いたします。

(質問)

- ・市長の任期が残り1年となりました。任期中の取組を振り返っていただいて、成果と課題はどのようなものがありますか。

(市長)

- ・市政ですので様々な課題が発生してくるものでありますけれども、それに対してしっかり対応してきました。特にコロナの状況もありましたし、今の物価の高騰もあります。釧路市だけではありませんが、国の様々な対策に合わせていながら、的確に対応していくことが求められています。

そういった状況はありますけれども、先々の見通しを構築していくことが重要であるとずっと考えています。都市経営という理念を元に様々な施策を進めてまいりました。その中では「雇用」という難しい部分ではあります、しっかりと指標にして進めてきました。一定程度の成果は見られるものの、まだまだしっかりとした体制に持ってくるには、時間がかかると考えています。日本製紙の工場閉鎖もありましたし、これからどのような展望を築いていくかということに力を入れて進めているところです。

いろいろな評価というものは、自分で行うものではなく、まわりの方々が行うものと思っており、日々努力しているところです。

(質問)

- ・これから1年の中で、最優先で取り組みたい課題は何ですか。

(市長)

- ・先ほども言いましたように、展望を作っていきたいと思っていますので、産業になります。北海道全体になりますが、資源に恵まれた地域です。釧路は3つの基幹産業に恵まれたことにより、付加価値率が低いということがデータに出ています。一番付加価値率が高いのが十勝、北海道の平均が函館、一番低い所が釧路になります。その背景として、恵まれた資源に付加価値を付けるよりも、原料のまま売っても収益が上がっていたということです。ですから、釧路でいろいろなものを作っていくことが必要です。ここにある資源をここで付加価値を高めていく取組や環境などの世界が求める事業が釧路からスタートできれば、将来的な展望も開いていけると取り組んでいるところであります。

(質問)

- ・新しい産業を作っていくような考えですか。

(市長)

- ・新しいというよりは、街の中にベースを作っていこうということです。

(質問)

- ・来年の市長選挙への出馬についてはどのようにお考えですか。

(市長)

- ・まだ何も考えておりません。私は時間軸を週単位で考えており、1年間52週で考えています。市役所でも3か月単位で動いており、1年前という時間軸はありません。

(質問)

- ・アイスホッケーについて、加盟申請まで2か月を切りました。ワイルズは加盟申請に向けての進展は見え、ひがし北海道クレインズも参戦の見通しが立っていない状況です。氷都くしろのプロチーム存続に向けた現在の市長の考えをお聞かせください。

(市長)

- ・アイスホッケー連盟を含めた関係者の方々との相談の中でも、何とか12月末までに申請を行いたいということが共通の思いでありました。そういった中で、具体的な相談まではいっていませんが、進めているところです。また、我々だけではなく、全国のアイスホッケーを応援してくれているの方々も同じ思いであると思っています。何とか申請に向けて、協議を進めていきたいというのが現状です。

(質問)

- ・協議は具体的にどこまで進められていると認識していますか。

(市長)

- ・12月に申請しようというところですが、まだ形が決まっています。

(質問)

- ・形というのは、ワイルズや第3のチームでの申請ということですか。

(市長)

- ・そういうことです。ただ、来年の参戦については共通の認識です。

(質問)

- ・先月の記者懇談会から進展した部分はありますか。

(市長)

- ・背景や前提が少し変わってきているところはありますが、協議の進展という部分では協議を重ねてきたということしかありません。背景は横浜GRITS(グリッツ)との試合の中で、皆さんのサポートが出てきたことがあります。アジアリーグについても、正式コメントとして伺っていませんが、チームをこの地域から出していきたいという立ち位置にな

っていただいていると思っています。その中で、どのような形で進めていくのかについてまだ固まっていない状況です。形さえ決まれば速やかに進んでいくと思っています。様々な背景がまた出てくると考えていますので、それらを踏まえながら対応していくことになっていくと思っています。

(スポーツ課長)

- ・リーグとは異なりますが、ワイルズの全日本選手権出場を決めていただいたことも進展の一つと考えています。

(質問)

- ・外国籍のクルーズ船の受入れが今年久しぶりにありました。今年は新しい外国船が多かったと思いますが、その実績について市長の考えをお聞かせください。

(市長)

- ・初入港が多く、世界の動きとして一気に進んでいくものだと感じました。以前はクルーズ船と言えば営業活動を行いながら進めていきましたが、コロナ禍では全く行うことができませんでした。その状況の中で、これだけ一気に進むということは、世界はこの水準で動いているということでもあります。非常にありがたいことだと思っています。

バルクの時に強く認識しましたが、釧路は日本の地図では端っこにありますが、世界のレベルで見るとアメリカやヨーロッパと一番近く、出入口となっています。国内基準ではなく世界基準で見ることがこれから重要なポイントと思っています。これからはクルーズ船の客層の方々がどのようなことに興味を持っていくのかをとらえ、そこに発信していくことが重要だと思っています。

そういった意味では、アドベンチャートラベルの中には異文化というものがあり、文化がどのように構築されてきたかというストーリーが重視される形になると考えています。このことから、クルーズ船の誘致に対しては、いままでのPRも重要ですが、ストーリーを発信していくことが重要になると考えています。ATWSでは、マリモやタンチョウ、猛禽類医学研究所の取組に大変興味を示していただけました。こういった発信がクルーズ船の誘致につながってくると考えますし、非常に期待しているところです。

(質問)

- ・大型船は第4埠頭に入るとは思いますが、それでも受入が難しい超大型船からの打診もあったと聞いています。以前は耐震岸壁に入港していた日本船が第4埠頭に入港したいという話が出たことから、河口が浅くなってしまう要因もあるのではないかと考えています。今後、大型船受入れの対策はありますか。

(市長)

- ・そこは大事な視点だと思っています。令和8年の港湾計画改定に向けた取組を行っており、その中では商船が西港、クルーズ船は東側に分けていくという考え方がベースにあります。都心部にクルーズ船が入れる都市は非常に少なく、東港区に入って来られることは非常に重要であります。

ところが、基準という大きなポイントがあります。耐震岸壁の基準は国内基準であります。当時日本で一番大きな船は「飛鳥II」でした。ですから水深は9mとなっております。その時の世界の基準は24から25万トンの船ですから、11mくらいになりますので、世界とは大きな差があります。

今既存の中央埠頭は10mがありますので、改良等で今来ている規模のクルーズ船は対応できると考えています。これらを踏まえて、今回の港湾計画改定の中で進めていこうと考えているところです。

(質問)

- ・今ある施設の中で協議検討をしていくということですか。

(市長)

- ・その通りです。

(質問)

- ・アイスホッケーについて、先ほどの回答の中にありましたが、正式ではないが、アジアリーグが釧路からチームを出したいと言われたのでしょうか。

(市長)

- ・これまでアジアリーグにそのような立ち位置はありませんでしたが、加盟のチームから試合のできないつらさを気にかけて試合を行っていただいたり、全日本選手権への参加が認められる中で、アジアリーグからもこの地域にチームがあることが望ましいという声が出ていると伺っており、アジアリーグから直接言われたわけではございません。そういったことから、背景が変わっているということです。スタートは選手ではなく基準がチームでしたが、選手が試合できるように進めていきたいと思いますという動きが出てきているという受け止めです。

(質問)

- ・改めて、申請を進める中でネックになっていることは何ですか。

(市長)

- ・選手がそのスポーツが好きで一生懸命取り組んでいくことに感動があるわけですから、意識が高い地域であり、全国からもその動きが沸き上がっていると認識しておりますので、様々なネックとなることは解消されて、12月に申請できるものと考えております。

(質問)

- ・クレインズの動きはありますか。

(市長)

- ・このことも背景の一つに入ってくると思っています。今のところ何も伺っていませんけれども、今のところ選手もいませんので、判断があると思っています。

(質問)

- ・来年の市長選挙について、先ほど「まだ何も」とのことでしたが、「まだ何も決めていない」のか「まだ何も考えていない」のか具体的に教えてください。

(市長)

- ・今は様々な課題の解消に向けて全力で進んでいるところですので、そういった意味では「まだ何も考えていない」ということになります。

(質問)

- ・いつごろまでに判断するなど時期的なものがありますか。

(市長)

- ・まだ何も考えていません。